

学校に男女別トイレが必要な理由



～思春期を迎えた女の子のために～

ブルキナファソでは教育環境が整っておらず、男女別トイレが設置されていない学校も少なくありません。ユニセフは、日本の皆さまからのご支援のもと、学校に男女別トイレを設置する支援を進めています。衛生上の理由はもちろんのこと、トイレがないために、思春期を迎えた女の子が生理中に学校に通えなくなることもあるためです。

2015年にユニセフが女の子を対象に生理中の学校生活について調査を行ったところ、次のようなことがわかりました。



生理中にブルキナファソの女の子は…

学校を休む

21%



痛みやストレス、けん怠感を感じる、または、自信をなくす

72%



学校での活動に消極的になる

83%



ユニセフが配布した生理に関するパンフレットを読んでいる女の子

また、「学校にトイレがなく授業を欠席し自宅に戻らなければならなかった」、「男の子にからかわれた」、「先生に相談しても対応してもらえなかった」などの経験をした女の子も数多くいました。

ブルキナファソでは、生理について話すことは文化的にタブーとされています。思春期の女の子は先生だけでなく、母親や同世代の友達にも相談することが難しく、生理についての知識がない女の子たちは様々な問題を抱えながら通学していたのです。

この調査結果を受けてユニセフは、学校に男女別トイレの設置を強化するとともに、**生理についての正しい知識を伝えるパンフレット**を女の子に配布し授業を

行う、**教師や親たちへのガイドブック**を作成する、などの取り組みを2016年から10校に試験導入しました。その結果、女の子たちの状況が改善されたことから、**2017年中には100以上の学校で同様の取り組みを導入する予定です**。すでに148人の先生が生理についての研修を受けました。パンフレットには、生理中も快適に過ごせるように、身近な素材を使って裁縫できるように生理用の布ナプキンの型紙も入っています。女の子が生理を恥ずかしいと感じずに自信を持って学校に通えるよう、ユニセフは、ブルキナファソのすべての学校での導入を目指しています。

男の子が女の子をからかうことがないように、女の子をサポートできるように男の子用のポスターも作成しました



日本の皆さまからのご支援の成果 (2014年10月～2017年12月末予定)



- 33校に330基の男女別トイレ(手洗い器付き)、16校に水供給設備(6校が雨水収集設備、10校が井戸汲ポンプ)を設置中です。37校の学校で「衛生クラブ」を設立し、生徒たちが設備の掃除とメンテナンスができるようになりました。(8,640人の生徒たちが対象)
- 69校に適切な衛生環境が保てるように、300個の手洗い器と300箱の石鹼を提供しました。(15,896人の生徒たちが対象)